

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-21	実施計画番号	28	事業開始年度	平成19年度
事務事業名	放課後子ども教室推進事業			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭および地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要がある。				
事務事業の目的	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流などの取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境作りを推進する。				
実施状況	主に低学年を対象に小学校10校および1公民館に安全管理員・学習アドバイザーを配置して、勉強・スポーツ・文化活動・地域との交流活動等を学校と協議しながら年間464回開催している。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		2,234	2,732	3,049

【指標】

活動指標	活動指標名①		実施箇所数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			箇所	11	11	9
	活動指標名②		実施回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	409	464	530
成果指標	成果指標名①		延べ受講者数			
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		人	目標値	5,000	5,000	5,000
			実績値	4,334	4,500	
			達成度(%)	87%	90%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">放課後における子どもたちの活動拠点(居場所)づくりとして、妥当性は充分にある。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	放課後における子どもたちの活動拠点(居場所)づくりとして、妥当性は充分にある。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
放課後における子どもたちの活動拠点(居場所)づくりとして、妥当性は充分にある。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">余裕教室を活用して各学校の状況に応じて実施しており、参加希望者を募っている。限られた予算の中で、活動日数を確保し、より参加しやすい日程調整活動内容にしていこうと、参加者の増加を図りたい。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	余裕教室を活用して各学校の状況に応じて実施しており、参加希望者を募っている。限られた予算の中で、活動日数を確保し、より参加しやすい日程調整活動内容にしていこうと、参加者の増加を図りたい。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	余裕教室を活用して各学校の状況に応じて実施しており、参加希望者を募っている。限られた予算の中で、活動日数を確保し、より参加しやすい日程調整活動内容にしていこうと、参加者の増加を図りたい。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">補助事業要綱に基づくものであり、コスト削減の可能性はない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	補助事業要綱に基づくものであり、コスト削減の可能性はない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	補助事業要綱に基づくものであり、コスト削減の可能性はない。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">学校を通して対象者全員から参加希望者を募っているため、受益の偏りはない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	学校を通して対象者全員から参加希望者を募っているため、受益の偏りはない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
学校を通して対象者全員から参加希望者を募っているため、受益の偏りはない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
			現在の適性	19 / 20	改善の余地 1 / 20					

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

学校・家庭・地域の連携協力事業であり、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりには必要な事業であることから、予算の範囲内で現状のまま継続した。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

小学校や保護者からの意見を取り入れ、多くの子どもたちが利用できる「放課後子ども教室」にしていきたい。しかし、国では当事業のほか「土曜日の教育活動推進プロジェクト」が開始しているので、うまく活用しながら予算を適正に確保していきたい。